

平成30年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 中国語中国文化学科・助手

申請者氏名 片倉 健博

研究課題		明清期における三国志故事の展開について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	『三国志演義』の形成過程を俯瞰すると、清初の毛宗崗本の刊行をひとつの画期とする。だが、今日知られる『三国志演義』の大枠は、明中後期の『三国志演義』のテキストですでに固まっている。三国志故事を扱った戯曲作品の中には、『三国志演義』より古い三国志故事が存していることが先行研究により指摘されているが、三国志故事を扱った明代の戯曲や『三国志演義』のテキスト間の異動を仔細に検討すると、明代の戯曲作品で描かれた三国志故事が『三国志演義』に取り入れられ、『三国志演義』の形成に影響を与えていることも近年指摘されるようになった。本研究は、『三国志演義』の二番煎じと軽んじられることも少なくなかった明清戯曲を作品ごとに個別に検討することで、戯曲が『三国志演義』に与えた影響および三国志故事の明清期の展開を明らかにしようとするものである。
	研究 の 結果	今年度は、前年度に引き続き三国志故事をもとに三国志のストーリーを二次創作している清代戯曲「南陽楽」の読解を試みた。その結果、「南陽楽」は従来指摘されていたような諸葛亮の活躍を描くものではなく、才子佳人譚と同様の構造を有し、『三国志演義』で否定的に描かれている人物を、『三国志演義』のエピソードを踏まえながらより否定的に描くことで、『三国志演義』における人物観を補強していると考えられることが明らかとなった。 学会活動においては、2016年度に神奈川大学で行われたシンポジウムをもとに企画された論集の編集に参画した。 そのほか、非常勤講師としての経験をもとに、初修外国語のリメディアル教育についての論考を執筆し、書写課題と受講生の承認欲求を満たすことが学習意欲の向上および学習行動の習慣化につながることを明らかにした。 また、書家・詩人として著名な趙僕初の墨蹟の紹介と翻訳を行った。
	研究 の 考察 ・ 反省	論文では、清代の「南陽楽」を題材とすることにより『三国志演義』の物語が清代には、二次創作の前提となるほど普遍的であることも明らかになった。しかしながら、取り上げた作品が1作品にとどまった。そのため、同時代の作品を網羅的に考察することで、その普遍性をより精確に明らかにする必要があると思われる。 リメディアル教育については、あくまでも対象が再履修クラスにとどまり、通常の第二外国語クラスとの違いについての考察が必ずしも十分であったとはいえない。再履修クラスと通常の第二外国語クラスでの違いを検討することが今後の課題である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 編集：中国古典小説研究会編『中国古典小説の未来—21世紀への回顧と展望（アジア遊学 218）』（2018年、勉誠出版）</li> <li>2. 論文：「『南陽楽』について—二次創作は『三国志演義』とどのように向き合うのか」（『中国語中国文化』第16号、2019年3月、日本大学文理学部中国語中国文化学科）</li> <li>3. 論文：「第二外国語としての中国語再履修クラスの授業展開について—初修外国語のリメディアル教育—」（『日本大学FD研究』第7号、発行日未詳、日本大学FD推進センター）</li> <li>4. 解題・翻訳：陳文芷著「瀛洲補記」（『中国語中国文化』第16号、2019年3月、日本大学文理学部中国語中国文化学科）</li> </ol>	